様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 ２８ 日現在

機関番号：３２６１７
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３５２０９０６

研究課題名（和文）ルイ１４世の戦争指導―フランス絶対王政論の再検討

研究課題名（英文）Military Strategy of Louis XIV, Reinterpretation of French Absolute Monarchy

研究代表者
佐々木　真（SASAKI, Makoto）

駒澤大学・文学部・教授

研究者番号：７０２６５９６６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　3,700,000円、（間接経費）　1,110,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究の目的は、スペイン継承戦争中の主要な戦闘の分析を通じて、戦争における作戦指導がどのようになされたのかという点を、とりわけルイ14世と将軍たちが果たした役割を中心に解明することである。この目的達成のために、フランスと日本で関連する史資料を網羅的に調査･収集した。
　そこから得られた知見は、国王のイニシアチブの重要性と、新貴族(法服貴族)の台頭下で影響力が低下したとされてきた旧貴族(帯剣貴族)が、戦争や政治において重要な役割を果たしたことであった。この知見は、従来の絶対王政像に再修正をもたらすものである。

研究成果の概要（英文）：The primary objective of this project was to analyze the major battles of the War of the Spanish Succession and to reveal king's military strategy during the war. To accomplish this objective, the project focused on the role of Louis XIV and his generals. As a method of the research, I investigated and collected the historical materials in France and Japan.
The conclusion of the project is that the role of Louis XIV as decision maker was very important and the old nobility (noblesse d'epee), who was underestimated in recent studies, continued to exert their influence in the conduct of the war and in the politics of monarchy. This project will reinterpret the image on French Absolute Monarchy.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・西洋史

キーワード：フランス　近世　軍事史　戦争　ルイ14世　絶対王政　国制　軍隊

１．研究開始当初の背景

研究代表者はこれまで、フランス絶対王政期の軍隊や戦争に関する国制史的な研究を進めてきたが、その研究はこれまでのフランスと日本の研究動向と密接に関連していた。

フランスでは 1964 年に兵士に関する大著を公刊したコルヴィジェの影響のもと、「軍隊と社会」というテーマで多くの研究が発表されてきた。軍隊を社会の中に位置づけるにあたっては、計量的な手法を利用した平時の軍隊の構造分析が研究の中心となり、19 世紀に隆盛を極めた戦史への関心はむしろ低下した。日本においては、二宮宏之の論文「フランス絶対王政の統治機構」(1979 年)以降、多くの実証研究が発表されていった。そこでは二宮の社団的編成論との関連で諸制度の特色が取り上げられ、事件史よりもフランス絶対王政の構造史的分析が主要な興味関心となっていた。

このような内外の研究状況のもとで、研究代表は国王民兵制や軍隊行政、軍隊への食糧供給と社会との関係など、軍隊の諸制度や軍隊と社会との関係を扱った研究を発表し、これまで日本における歴史研究が等閑視してきたフランス絶対王政期の軍隊を、国制の中に位置づけることに貢献してきた。たが、これまでの研究には、内外の研究状況の影響のもとで、以下のような欠落があった。

(1) 軍隊のもっとも重要な活動局面である戦争や戦闘を扱っておらず、もっぱら国制史から見た構造的・静態的分析が中心となっていた。

(2) 社会や官僚制との関連を重視したため、地方長官や軍政監察官などの文民官僚を通じた軍隊行政が検討の中心となり、軍人の行動や王権による作戦指導についての分析が不十分であった。

軍部により実施された 19 世紀の戦史を批判し、軍隊と社会との関係を追及する「新しい軍事史」が大戦後の日欧で展開されてきたことには一定の理由がある。しかし、軍隊は戦争の遂行のために存在しており、戦争の帰趨が当時の政治や社会に与えた影響を考えれば、戦争や戦闘とそこにおける軍人の役割を分析することが不可欠である。戦史研究への興味は、歴史における「意思決定 decision making」を重視するアングロ・サクソン系の研究者たちには堅持されており、チャンドラー (David Chandler, *Marlborough as Military Commander*, Staplehurst, 1973)やリン(John A. Lynn, *The Wars of Louis XIV 1667-1714*, Edinburgh, 1999)の研究がある。フランスでもエコノミカ出版社より「戦役と戦略コレクション」というシリーズが出版され、戦史への関心は増大しつつある。この傾向は近年さらに顕著で、2010 年にはルイ 14 世の軍事戦略を概括したジェナの研究(Jean-Philippe Génat, *Le roi stratège, Louis XIV et la direction de la guerre, 1661-1715*, Rennes, 2010)が公刊され、リンの前掲書のフランス語訳も出版された。

研究代表者はこのような新しい研究状況に触発され、2010 年にマルプラケの戦いについての論文を公表したが、内容は従来の研究の延長線上にある文民官僚による軍隊行政の検討が中心であり、戦闘に際しての軍人たちの動向や、王権による作戦指導についてはごく部分的に触れたにすぎなかった。そこで、従来の研究で欠落していた部分を解明し、フランス絶対王政像や軍事史の方法を再検討するために、本研究を企画した。

２．研究の目的

本研究の目的は、スペイン継承戦争時のフランドル方面の軍事活動に関して、以下の諸点を解明することである。

⑴ 戦争における作戦指導のあり方

フランドル方面での主要な戦闘であるラミリーの戦い(1706 年)、リールの攻防戦(1708 年)およびマルプラケの戦い(1709 年)を取り上げ、国王、陸軍卿、財務総監、大貴族、軍司令官などがいかに軍事行動に関与していたのかを調査する。これにより、いかなる回路で戦争や作戦が指導されていたのかを解明する。

⑵ 作戦指導における王権と将軍の関係

上記の作戦指導の実態を具体的に解明するなかで、当時の将軍たちと王権との関係を明らかにする。これらの解明により、新貴族である法服貴族に比して、これまで実態の解明が圧倒的に遅れていた帯剣貴族のあり方を明らかにし、絶対王政研究に新たな視点を提供する。

⑶ 戦争の国制への影響

戦争という非常時における実際の作戦指導が当時の特権の体系に抵触したのか否か、また、作戦の実施により当時の国制的枠組みが変化したのかどうかを解明する。また、戦闘の帰趨により、将軍たちと王権との関係や彼ら同士の権力関係がいかに変化したのかを調査し、変化のプロセスも明らかにする。

３．研究の方法

3 年間を通じて以下の作業を行った。

(1) フランスでの史料調査

(a) 史料と収蔵先

上記研究目的を達成するために、毎年夏期にフランスでの史料調査を実施した。具体的な史料と収蔵先は以下のとおりである。

・中央と軍隊との交信

中央と現場の司令官との交信は、フランス防衛省戦史室 Service historique de la Défence の A1 史料群(Série A1)に所蔵されている。これはヴェルサイユの陸軍卿部局に宛てられたものを集成したものであるが、中央から発信されたものに関しても写しが保存されており、国王や陸軍卿から現場の将軍たちに宛てた文書も閲覧することができる。本研究に関連する史料は、1706 年、1708 年および 1709 年の 3 年分で数千件以上となるが、

調査では重要な書簡を確認しつつ、必要に応じてマイクロフィルムの複製依頼を行なった。

・中央と地方行政機構との交信

現場で軍隊に対する後方支援を行った地方長官と陸軍卿との交信は、前述の防衛省戦史室の史料に収蔵されている。これに対し、地方長官と財務総監との交信は、パリの国立文書館 Archives nationales の G7 史料群(Série G7)に所蔵されている。国立文書館の文書に関しては、カメラでの撮影が可能なので、デジタルカメラを利用して史料の収集を実施した。

・軍人や貴族の回想録

サン・シモン公爵(A. de Boislisle (éd.), *Mémoire de Saint-Simon*, Paris, 1879-1928)やスルシュ侯爵(Louis-François de Bouschet, Marquis de Sourches, *Mémoire du marquis de Sourches sur le règne de Louis XIV*, Paris, 1882-1893)、フーキエール将軍(Mémoires de M. le marquis de Feuquiere, lieutenant général des armées du roi, *contenants ses maximes sur la guerre, & l'application des exemples aux maximes*, Londres, 1740)など、戦争に参加した軍人や宮廷と密接に関連していた貴族たちで回想録を残している者が多くおり、そこには戦争指導に関する記述も存在している。パリの国立図書館 Bibliothèque nationale でこれらの現物を確認し、必要なものについては、関係部分の記録、電子データの存在の有無の調査、古書の入手などを実施した。

また、1706 年から 1708 年までフランドル方面軍を指揮したヴァンドーム公に、国王や大臣たちが宛てた書簡(B.N. ms fr.10247)のように、軍人や貴族に関する史料は国立図書館の手稿史料部にも保存されている。本研究では、ここでの所在調査も重点的に実施した。目録の整備状況が悪いため、史料調査は完全には実施できなかったが、相当数の史料を収集することができた。

・『メルキュール・ガラン *Mercure Galant*』

政府系の定期刊行物である『ガゼット *Gazette de France*』や『メルキュール・ガラン』にも戦闘についての記述や国王や貴族の動向記事などが数多く掲載されている。フランスでの調査では、日本には存在しない『メルキュール・ガラン』を国立図書館で閲覧し、本研究に関連する記事を収集した。

・19 世紀の戦史研究

作戦や戦術に関しては、参謀本部を中心とした軍人による研究が 19 世紀に数多く出版されている。これらの研究については、日本ではほとんど閲覧することができないので、国立図書館で内容を調査した。

(2) 日本国内での史料調査

日本国内では、以下の史料について調査を実施した。

・『ガゼット』

『ガゼット』は早稲田大学がマイクロフィルムを所蔵しているので、閲覧して必要な部分を複写した。

(3) 関連先行研究の分析

本研究に関連する研究書や論文購入等により入手し、それらの分析を行った。

(4) 途中経過の公表

研究会での報告を中心に、本研究に関連する報告を行い、専門研究者たちからのコメントや意見を得た。

４．研究成果

3 年間の調査を通じて得られた知見は、本研究開始当初の見通しの正しさを示していた。すなわち、戦争指導にかんしては、収集した史料より、ルイ 14 世は陸軍卿、財務総監、大貴族、軍司令官などの関係者達と緊密な連絡を取り、そこから生ずるさまざまな問題や当事者間の利害を調整する努力していたことが明らかとなった。また、実際の軍事面における軍隊の指揮官たちの活動を検討してみると、彼らは王権との協力や対立を経つつも、戦争の遂行において重要な役割を果たしたことが明らかとなった。

従来の研究では、軍隊の指揮官である旧貴族(帯剣貴族)の影響力の低下と、これにかわり、ルイ 14 世期には政権の中枢を占めた新興社会層(法服貴族)の役割を強調し、両者の対立を重視する傾向があった。しかし、本研究ではむしろ、軍事問題への対処において両者の協調の側面が認められたことと、大貴族を中心に、旧貴族層の戦争や政治に対する影響力は大きく、従来は彼らの役割は過小評価されたことが明らかとなった。その意味で、本研究はこれまでの国制史研究に重要な修正を迫るものであり、研究成果の学術的意義は大きいと考えられる。

今後はマイクロフィルムやデジタル･カメラで採集した試料の分析をさらにするめ、学会発表等における意見交換で得られた知見をまとめて、成果を積極的に公表していく予定である。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）

① 佐々木 真、「ラインの渡河」の表象―戦争イメージの構築をめぐって、軍事史学、査読無、第 50 巻 2 号、2014 (掲載予定)

② 佐々木 真、ファン・デル・ムーランと戦争画、駒沢史学、査読無、第 78 号、2012、pp.1-35、http://repo.komazawa-u.ac.jp/opac/repository/all/32742/rsg078-06-sasakimakoto.pdf

〔学会発表〕（計４件）

① 佐々木 真、近世国家と普遍君主―ルイ 14 世のローマ、ヨーロッパ近世史研究会

第 20 回例会、2013 年 9 月 22 日、駒澤大学

② 佐々木 真、芸術作品におけるルイ 14 世の武威―版画とメダルを中心に、早稲田大学高等研究所セミナーシリーズ【研究エリア<比較文明史>】第２回シンポジウム、2013 年 3 月 2 日、早稲田大学

③ 佐々木 真、フランス絶対王政期の軍隊と国制、ユーラシアの近代と新しい世界史叙述 第３回「支配」研究会：「王権と軍隊の諸相」、2013 年 1 月 14 日、東京大学

④ 佐々木 真、絶対王政期の戦争と芸術―ルイ 14 世期のメダルを中心に―、関西フランス史研究会、2013 年 1 月 12 日、京大楽友会館

〔図書〕（計１件）

① 佐々木 真、河出書房新社、図説 フランスの歴史、2011、167 ページ

〔産業財産権〕

○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者

佐々木　真（SASAKI, Makoto）
駒澤大学・文学部・教授
研究者番号：７０２６５９６６

(2)研究分担者

（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者

（　　）

研究者番号：